



卷頭言

国領, 英雄

(Citation)

海事資料館研究年報, 23

(Issue Date)

1995

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005675>



巻 頭 言

海事資料館長 國 領 英 雄

今年度は、兵庫県南部地震による展示室と資料の破損のためついに閉館のまま幕を閉じざるをえなくなったことを非常に残念に思います。

震災を機に、総合水槽実験棟の一部を借りて保蔵されていた資料を搬出し、これをプレハブ棟に一時的に収納する作業に携わり、諸先輩が長年にわたって収集されてきた貴重な資料が多数あることをあらためて知りました。と同時に折角の資料がいわば埋もれたかのように陽の目をみずにこのまま放置されていってはならないという思いを深くしました。展示室の資料のうち、ケース類の破損を除いて、模型等の被災資料が約20点ありました。幸いこれらの資料は復旧が認められ、一部は修理が終り、その他の模型も年度末前後には戻ってくるのではないかと考えられます。しかし、プレハブに蔵置された被災資料は当分修理の目途が立たないままになりそうです。海事資料館としては、展示物を適宜入れ替えて、資料館の展示に変化をもたせ、観覧者にも新たな感興をもたらしたいものです。それが収集した目的にも副うものであり、文化財にも息吹きを与えるものであると思われまふ。

ないないづくしのなかで、これらを実現することはなかなか困難ですが、学内外の御理解を得て、折角の収集の努力と実を活かす道を講じてもらいたいものです。いまは海事資料館の一日も早い開館と資料の活性化を念じる次第です。